22　次の文章は『史記』司馬相如列伝の一節である。この文章の前で、司馬相如はの孝王が死去したのを機に帰郷し、旧知の令（長官）を頼って（四川省市）に行き、土地の富豪である卓王孫の招待に応じて令とともにパーティーに出席する。よく読んで、後の問いに答えよ（設問の都合で返り点、送り仮名を省いたところがある）。　　　　　　〈広島大〉二〇二二年度出題

　　時　卓　王　　㆓ 　文　 ㆑ 。　相　如　 与㆑ 令　　、 ㆓ 琴　㆒ ㆑ 。相　如　 臨　㆒、㆓ 車　㆒、　　間　ａ甚　 卓　㆒ 、文　君　 ㆑ 戸　㆑ 、心　 而　 、① 得㆑ 也。　、②相　如　乃　使　人　重　賜　文　君　侍　者　通　殷 勤。文　君　夜　 相　㆒、相　如　　 　 成　㆒。③家　居　　四　壁 。卓　王　孫　 「女　 不 、 ④我　不㆑ 忍㆑ 殺、 一　㆒ 也。」人　 王　㆒、王　孫　　不㆑ 。

　文　君　 　 、「長　卿　　　 臨　㆒。 昆㆒ 仮　 　 。　 　 。」相　如　 臨　㆒、ｂ尽　㆓ 　車　㆒、 一　酒　㆒ 、 ⑤令㆓ 文　君　当一㆑ 。相　如　身　　 　　 与㆓ 保　庸㆒ 雑　、 　於　市　㆒。卓　王　孫　 而　⑥㆑ 、ｃ為　 　不㆑ 。⑦昆　弟　諸　公　　 王　㆒ 、「　一　男　両 女㆒、㆑ ㆑ 　　 　也。今　文　君　　 　於　司　馬　長　㆒、長　卿　　 、㆑ 　人　材　 也。ｄ且　又　　。 ｅ奈　何　　 。」卓　王　孫　不㆑ 得㆑ 、分 　文　　　百　人、銭　百　万、　　　　衣　被　財　㆒。文　君　　与㆓ 相　如㆒ ㆓ 成　㆒、 田　㆒、㆓ 富　㆒。

注　司馬相如…成都（四川省成都市）の人。字は。漢代を代表する文学者。

　　寡…夫を亡くした女性。

　　与令相重…長官と互いに敬い合う。

　　琴心…琴の音に託した思い。

　　雍容間雅…ゆったりとして優雅な様。

　　都…容姿や所作が美しい。

　　弄…奏でる。

　　殷勤…思慕の情。

　　昆弟…兄弟。ここでは一族の有力者。

　　仮貸…借金する。

　　当鑪…店番をする。

　　犢鼻褌…子牛の鼻のような形をしたふんどし。

　　保庸…雇われ人。

　　諸公…町の長者。

　　僮…召使い。

　　衣被…衣服と夜具。

問１　二重傍線部ａ「甚」・ｂ「尽」・ｃ「為」・ｄ「且」・ｅ「奈何」は、それぞれ文中でどのように読むか。その読み方を送り仮名も含めてすべて平仮名で記せ（現代仮名づかいでもよい）。

問２　傍線部①「恐不得当也」の解釈として最も適当なものを、次のア～オのうちから選び、記号で答えよ。

ア　卓文君は、相如の演奏に対して自分の実力では及ばないであろうと恐れていた。

イ　卓文君は、相如の目的が自分を欺いて財産を奪うことにあることを疑っていた。

ウ　卓文君は、相如の相手として自分はしくないのではないかと心配していた。

エ　卓文君は、相如の能力に対する自分の評価が間違っていることを懸念していた。

オ　卓文君は、相如の挑戦を阻むことができず自分が相手をすることを憂えていた。

問３　傍線部②「相如乃使人重賜文君侍者通殷勤」は「相如は人を通じて文君の侍女に手厚く贈り物を与えて思慕の情を伝えさせた」という意味である。その場合、本文にはどのように返り点を施せばよいか。解答欄の本文に返り点を施せ（送り仮名は不要）。

問４　傍線部③「家居徒四壁立」はどのような状況を表すか。最も適当なものを、次のア～オのうちから選び、記号で答えよ。

ア　部屋の中に誰もらず、抜けがらのような状況。

イ　隣近所との関係が悪く、周囲から孤立した状況。

ウ　自宅の四方が塀に覆われて、外出できない状況。

エ　家の中が空っぽで何もない、とても貧しい状況。

オ　周囲に他の家はなく、世間から隔絶された状況。

問５　傍線部④「我不忍殺」、⑤「令文君当鑪」をすべて平仮名で書き下し文に改めよ（現代仮名づかいでもよい）。

問６　傍線部⑥「恥之」は何を恥ずかしく思ったのか。三十五字以内で説明せよ。

問７　傍線部⑦「昆弟諸公更謂王孫曰」とあるが、昆弟諸公はどのような理由を挙げて卓王孫を説得しようとしているか。その理由を昆弟諸公のことばから三点にまとめよ。

◎問８　卓文君はどのような人物として描かれているか。本文の記述に即して説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　ａ＝はなはだ　　ｂ＝ことごとく　　ｃ＝ために

　　　ｄ＝かつ　　　　ｅ＝いかんぞ

問２　ウ

問３　相 如 乃 使下 人 重 賜二 文 君 侍 者一 通中 殷 勤上。

問４　エ

問５　④＝ＡわれころすにＢしのびざるも

Ａ＝５〔「に」が補えていなければ０。〕

Ｂ＝５〔「しのび」と未然形に活用させていなければ減点２。「ざるも」と逆接でつなげていなければ減点２。〕

　　　⑤＝ＡぶんくんをしてＢろにあたらしむ

Ａ＝５〔「をして」が補えていなければ０。〕

Ｂ＝５〔「に」が補えていなければ０。「あたら」と未然形に活用させていなければ減点２。〕

問６　Ａ貧しさゆえに、Ｂ相如は姿で下働きをし、Ｃ娘は酒屋の店番をしていたこと。（34字）

Ａ＝３〔「貧しくて」なども可。〕

Ｂ＝４〔「褌姿」は「みすぼらしい姿」なども可。「下働き」は「皿洗いなどの雑用」と具体的に説明していても可。〕

Ｃ＝３〔「店番をしていた」は「店番をさせられていた」と使役にしていても可。〕

問７　・Ａ子は三人しかおらず、Ｂ財産は充分に分与することができるから。

Ａ＝５〔「三人」は「一男二女」などと具体的に説明していても可。〕

Ｂ＝５〔「経済的な援助をしても困らないだけの財産がある」などと説明していても可。〕

　・Ａ相如は貧しくはあるが、Ｂその人物・才能は捨てたものではないから。

Ａ＝５〔「貧しくはあるが」は「今は貧しい暮らしを余儀なくされているが」などと説明していても可。〕

Ｂ＝５〔「頼り甲斐のある人物である」「優れた才覚を持っている」などと説明していても可。〕

　・Ａ長官の賓客である相如をＢ見捨てると長官のを潰すことになるから。

Ａ＝５〔「賓客」は「客」「旧知の者」などでも可。〕

Ｂ＝５〔「ないがしろにすることはできない」「軽く扱うわけにはいかない」などと説明していても可。〕

問８　Ａ想いを寄せる男性と駆け落ちし、その後は自ら酒屋の店頭に立って夫を支えるなど行動力に長け、Ｂなおかつ一族の有力者を頼って経済的援助を求めるなど判断力にも優れた人物。

Ａ＝５〔相如と駆け落ちしたエピソードがなければ減点２。酒屋の店番をするエピソードがなければ減点２。それらのエピソードを踏まえた人物像が示せていなければ減点１。〕

Ｂ＝５〔一族の有力者から借金しようとしたエピソードがなければ減点２。そのエピソードを踏まえた人物像が示せていなければ減点１。〕

【書き下し文】

のになるものり。たにとなり、をむ。にりてとひんじ、してをてにむ。相如にくとき、をへ、にして問１ａだ やかなり。にみて琴をするにびて、文君かにより之をひ、びて之をしとし、たるをざらんことをるるなり。にみ、問３相如ちをしてく文君にひてをぜしむ。文君げて相如にり、相如乃ちにせてにる。だつのみ。卓王孫いにりてはく、「女つてなり、問５④すにびざるも、もかたざらん。」と。人いは王孫にふも、王孫にかず。

　文君之をしくしてしまずして、曰はく、「だに臨邛にけ。に従ひてせばほをすにらん。ぞらしむことくのごときにる。」と。相如与に倶に臨邛に之き、問１ｂくの車騎をり、をひてをり、而して問５⑤文君をしてにたらしむ。相如自らをけとし、をにふ。卓王孫きて之をぢ、問１ｃにをぢてでず。王孫に謂ひて曰はく、「有るのみ、らざるのはにざるなり。文君に身を長卿にし、長卿にみ、しとも、其のるに足るなり。問１ｄつ令のなり。り問１ｅぞひむること此くのごとき。」と。卓王孫むを得ず、文君に、、及び其のせしのをす。文君乃ち相如とにり、を買ひて、と為る。

【現代語訳】

このとき卓王孫には文君という娘がいた。（彼女は）寡婦（＝夫を亡くした女性）になったばかりで、音楽が好きだった。だから相如は偽って長官と互いに敬い合い、琴の音に託した思いで文君の心をきつけようとした。相如が臨邛におもむくときには、馬車を従え、ゆったりとして優雅な様でたいそう容姿や所作が美しかった。卓氏の酒宴にのぞんで琴を奏でると、文君はひそかに戸（の隙間）からこの様子をうかがい、心惹かれて相如を好ましく思い、問２相如の相手として自分は相応しくないのではないかと心配していた。すっかり（酒宴が）終わると、相如は人を通じて文君の侍女に手厚く贈り物を与えて思慕の情を伝えさせた。文君は夜に（家から）逃げだして相如のもとに向かい、そこで相如は文君を連れて成都に（馳せ）帰った。（しかし成都の）家はただ四方の壁が立っているばかりで（問４家の中は空っぽで何もない、とても貧しい状況で）あった。卓王孫が大いに怒って言うことには、「娘は極めて愚かだ、（父として）私は（不義をとがめて）殺すには忍びないが、（しかし）たとえ一銭でも分与してやるつもりはない。」と。（二人のために）王孫にとりなしてくれる人もあったが、王孫はどうしても聴きいれなかった。

　しばらくすると文君は（貧しい暮らしに）心楽しまずに、言うことには、「あなたはとにかく私と一緒に臨邛に行きなさい。（一族の有力者である）兄弟から借金をすればどうにか生活できるでしょう。どうして自分からこんなに（貧しい暮らしをして）苦しむことがありましょうか、いやありません。」と。（そこで）相如は文君とともに臨邛に行き、所有していた馬車をすべて売りはらって、（そのお金で）酒屋を一軒買い入れて酒を売り（はじめ）、文君には店番をさせた。相如自身は子牛の鼻のような形をしたふんどし（一枚）になって雇われ人とともに雑用を行い、食器を市場の中で洗った。卓王孫はこのことを聞いて恥じ入り、そのため門を閉じて外出しなかった。文君の兄弟や長老たちがかわるがわる王孫に言うことには、「（あなたの）子どもは一男二女だけで、財産は充分にあります。いま文君はすでに司馬長卿と夫婦になってしまいましたが、長卿はもともと久しく外に遊歴した男で、貧しくはありますが、その人物・才能は捨てたものではありません。それに県令の賓客でもあります。（それなのに）どうしてこんなにも捨ておかれるのですか。」と。卓王孫はやむを得ず、文君に召使い百人・銭百万と、先夫に嫁いだ際の衣服と夜具や財物を分与した。そこで文君は相如とともに成都に帰り、田宅を買い入れて、富豪となった。